



# 東京多摩プロバスニュース

第 40 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行:編集委員会 2012. 1. 11

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

## 共に学び、活動し、自己実現と社会貢献を

### 第 89 回 定例会

日 時 :平成 23 年 11 月 2 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 :関一つむぎ館第 1 会議室

出席者 : 29 名(会員数 36 名)

### 第 90 回 定例会

日 時 :平成 23 年 12 月 7 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 :「美膳」大和室(永山情報教育センター)

出席者 :24 名(会員数 36 名)

### 理 念

1. 豊かな人生経験を生かして地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

### ◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

「次の世代へ残すべきもの」 副会長 中村昭夫



新年明けましておめでとうございます。新しい年を迎え新たな気持ちで私たちクラブの使命を体して、皆さまと共に活動してゆきたいと思います。

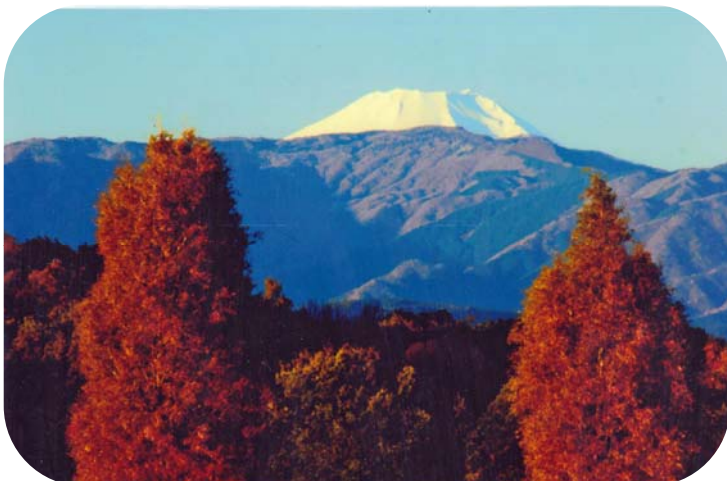
豊かな人生経験とさまざまな知識や技術を持っている会員各位が、プロバスライフの中でその力をどのように生かしてゆくかということについて、今年は皆で考えて行動に移せたらと思っています。多摩プロバスソングの中で私たちは、「我が故郷の行く末と 社会奉仕に力を注ぐ」そして「豊かな知識身につけて 次の世代の若人の 教え導く糧となる」と詠っています。私たちの大きな使命の一つとして、若人たちに私たちの経験や知識、技術などを通して日本の文化や伝統、日本人としてのあり方などを伝えていかねばならないのではないかと思います。

外国の人たちから日本人は「礼儀正しく、教養があり、親切な国民」とよく言われますが、今の若い人たちがこのように呼ばれてふさわしいかとの問いにはまだ未熟なところが多いのではと思います。若い人たちが日本の文化、作法、伝統、知識な

どを体するためには、私たち高齢者が教えてそれを伝えていくということも大切なのではないかと、ここにプロビアンとしての使命の一つがあるのでと思います。

将来、世界に羽ばたく人材であってほしい若い人たちが「礼儀正しく、教養があり、親切な国民」と呼ばれる人材に育ててほしいと念じています。

朝陽に映える富士とメタセコイア “希望輝く未来へ！”  
(多摩市鶴牧第 2 公園で)



## 1. 幹事報告

稲田興幹事

### 1.1 「対外交流」が活発化してきました。

#### 1) 関東中央ブロックプロバス交流会

11/17(木)八王子 PC が計画し、関東地区 8PC の初の交流会が八王子エルシーで行われ、当多摩 PC より会長以下 7 名が参加。各クラブの活動内容・在所が紹介され、今後とも継続すべきとの意見が強かった。関連記事 P5 参照。

#### 2) 横濱 PC との交流、11/24(木)実施

今後更に交流を深めようとの機運も高まり、具体的には理事会で検討していく。関連記事 P5 参照。

### 1.2. 多摩市中学生俳句大会について

12/17(土)、東京多摩ロータリークラブ主催、当クラブ協賛の本大会の表彰式が、多摩市長以下の列席の元、ベルブ永山で挙行された。当クラブから「東京多摩プロバスクラブ賞」5 句の優秀作品を表彰。1/26~31 京王デパート連絡ブリッジギャラリーに展示、東京多摩ロータリークラブ編集の句集「山桜」は 2/1 発行の予定。

### 1.3. “サンタキャラバン” 東日本大震災被災地訪問

北村総務委員長が中心に進められた被災地の子供たちへの“サンタキャラバン”(12/3~4 実施)に対し、理事会でその一部の支援費の提供を決定した。関連記事 P4 参照。

## 2. 委員会・プロジェクト報告

### 2.1. 総務委員会

北村克彦委員長

1) 11 月度定例会(11 月 2 日)出席：29 名 欠席：4 名。

講話は、多摩中学校校長 原島久男先生による「青少年とどう向き合うか～学校・家庭・社会～」で、詳細は P3 に掲載。

2) 12 月度定例会(12 月 7 日)出席：24 名 欠席：8 名。

定例会・忘年会とも、多摩永山情報教育センター大和室を会場にして開催。

12 月から森川静子さんが入会。1 月入会予定の藤寄喬子さんが見学。また、永井岩男会員が、12 月から一年間休会されることになった。



総務委員会の皆さん

座談会は、「東京多摩プロバスクラブのこれから」というテーマで行った。関連記事は P4 に掲載。

### 2.2. 研修・親睦委員会

滝川益男委員長

1) 11 月 24 日、横濱プロバス倶楽部会員 15 名の方を当地に迎え、クラブ間交歓会「多摩の紅葉狩りとニュータウン散歩」を実施。全会員挙げての協力体制に感謝したい。

2) 忘年会を 12 月 7 日、多摩永山情報教育センター大和室にて開催。当会会員 27 名、夫人 2 名が出席し、八王子 PC から 4 名、日野 PC から 2 名、他に 2 名のお客様を迎えて合計 37 名参加の盛会となり、上半期を締めくくった。

下半期は、よりいっそう全会員が喜べるような楽しいプロバスを目指し、研修・親睦の諸企画を実施してまいりたい。

### 2.3. 地域奉仕委員会

西村政晃委員長

1) 東京都「マイツリー計画」への参加

12 月度定例会の席上、東京都の街路樹倍増による美しい街づくりの計画「マイツリー計画」の募金を実施しました。3 万円の寄付が集まり、東京都建設局に中木 3 本、

場所は鎌倉街道(ニュータウン通り)で申し込みました。

2) 市民企画講座「裁判員になるかもしれないあなたに」と題して、12 月 17 日(土)に関戸公民館との共催で市民企画講座を開催しました。関連記事は P 3 に掲載。

### 2.4. 広報委員会

増山敏夫委員長

1) 多摩プロバスニュース 39 号の発行(11 月 2 日)、40 号(1 月 11 日発行)の執筆依頼・編集・校正。

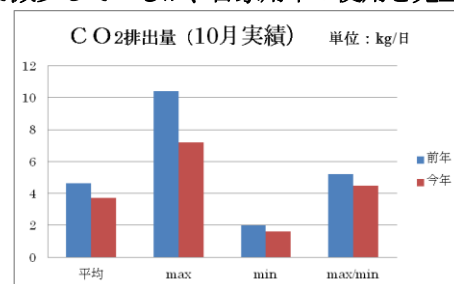
2) プロバスニュースの依頼原稿が特定の人に集中し過ぎないように、又広報委員の編集負担があまりかからぬよう誌面の量も含めて今後検討していく。

## 3. プロジェクト報告

### 3.1. 環境問題プロジェクト

村上伸茲リーダー

平成 23 年 10 月度炭酸ガス排出量結果を、20 名の会員から提供いただいた。前年同期の値と比較してみると、平均値で 20% の削減がみられた。最大・最少排出量についても、大幅な削減効果が出ている(棒グラフ参照)。主要因は、電気使用量の削減によるが、夏場の節電対策が 10 月にも継続されたためと考えられる。ガソリンの使用量も全体で減少しているが、自家用車の使用を完全にやめた方もおられ、会員の方々の「エコ活動」には並々ならぬ努力がみられる。



平成 23 年 10 月度炭酸ガス排出量

### 3.2. 「創立 10 周年記念事業企画プロジェクト」

の発足

大澤亘リーダー

当クラブは、2 年半後の 2014 年(平成 26 年)5 月に創立 10 周年を迎えます。そこで、その記念事業をいつ、どこで、どのような内容で行うかなどを検討するため、7 月 27 日(水)の今年度第 1 回の理事会で決定し 8 月の定例会にも諮ったうえ、プロジェクトチームを発足させました。

会場の確保や資金の手当てなどは早めの準備が必要なので、今年度から検討を始めることにしたものです。全理事、各委員会から 1 名と女性会員を含めた 16 名で構成し、10 月 5 日(水)に第 1 回の会合を開催しました。今年度中にいくつかの具体案をまとめて次期理事会に引き継ぐ予定です。

青少年とどう向き合うか～学校・家庭・社会～  
多摩市立多摩中学校校長 原島久雄先生

次世代を担う子ども達の様子はどうか、学校・家庭・社会は、彼らとどう向き合っていけばいいのか。教育現場に長く携わってこられた、原島先生に貴重なお話を伺った。先生は、民間企業を辞めて教壇に立ち、29年前に多摩市に来られ、校長として15年になられる。以下、講演の要点を記述します。



(文責 総務委員長 北村克彦)

- 1) 多摩中学校には、他学区から通学している生徒が全校生徒の40%います。公立の良さは、色々な子ども、色々な教師がいること。平成21・22年度多摩市教育委員会研究奨励校として、新学習指導要領に向けて教育実践の研究と指導力の向上に努めている。
- 2) 小学校低学年までは友だちや動植物とのかかわり、小学校高学年から中学までは地域や家族とのかかわりが大切。体験は子どもの成長に欠かせない。
- 3) 「最近の東京の子どもたちの印象」のアンケートから：回答者の属性(校長、教師、保護者、一般市民、企業の役員・経営者)によって印象の違いが大きい。たとえば、<規範意識がたりない>と考える割合が、学校側と保護

者側とで大きな差がある。親と学校の意識のズレが問題であり、これから取り組まなければならない課題である。  
4) 多摩中学校の取り組み

- ①ユネスコスクールに加盟し、ESD(Education for Sustainable Development)に関する活動を推進する。
- ②放課後や土曜日、大学生らの協力を得て自習教室「サポートスクール」を開設、確かな学力確立を目指す。
- ③入学予定の小学6年生に対して、「学習探検ナビ」を配布、入学後の指導計画に役立てる。
- ④スポーツ教育推進校として武道・ダンスの必修化に取り組む。
- ⑤体験活動を重視し職場体験を実施。
- ⑥花火大会の後の清掃に参加するなど、地域と結びついた活動に取り組む。
- ⑦新学習指導要領と実施を来年度に控え、振替休日のない土曜授業や、祝日授業を実施、年間授業時数を確保、教師が子ども一人一人と向き合う時間を確保している。

この他、多摩中学校の教育実践の詳しい内容について、多くの資料をいただいた。先生方の努力に頭が下がる。地域社会も連携を取りながら子ども達の教育を支えていきたい。

「裁判員になるかもしれないあなたへ」  
一橋大学大学院法学研究科 後藤昭教授  
去る12月17日(土)午後、関戸公民館との共催で「裁判員になるかもしれないあなたへ」と題して市民企画講座を、関戸公民館大会議室で開催しました。講師には後藤先生にお願いし、裁判員制度についてその実施状況も含め、分かりやすく講演していただきました。以下、講演の要点を記述します。(文責 地域奉仕委員長 西村政晃)

◆裁判員制度とは？

重大な刑事裁判に、普通の人たちが裁判員として加わります。裁判員は抽選で選ばれ、1つの裁判だけに参加します。6人の裁判員が3人の裁判官と一緒に法廷に立ち会います。そこで裁判員と裁判官と一緒に話し合っ、被告人は有罪か無罪か、有罪ならどんな刑を言い渡すかを決めます。2009年5月から始まりました。

◆裁判員裁判はどれくらいあるか？

2010年、全国で1,530人の被告人の裁判が行われました。罪名別で見ると、強盗致傷26.3%、殺人23.5%、現住建造物等放火8.7%、傷害致死7.5%、覚せい剤取締法違反7.4%、その他26.7%となっています。

◆裁判員裁判でどんな判決が出ているか？

2009年5月～2011年7月に裁判を受けた被告人の総数2,574人。有罪判決が2,507人、無罪判決が9人で裁判員

が入ると無罪判決が少し多くなっているようです。有罪の中で死刑判決8人、無期懲役51人となっています。

◆裁判員が入ったために刑が変わったか？



講演中の後藤先生

性犯罪などでは少し重くなってきており、強姦致傷罪の量刑は平均6ヶ月重くなったようです。殺人罪の量刑は裁判官のみの時と裁判員裁判とはあまり変わっていません。

◆裁判員を務めた人たちはどう感じたか？

2010年の最高裁のアンケート調査結果。「審理」について63.1%の人が理解し易かったと答え、「評議」について71.4%の人が十分に議論できたと答え、「やりがい」について55.5%の人が非常に良い経験と感じた、と答えています。

◆裁判員になったら、心に留めてほしいこと

後藤先生は最後に次のように結びられました。

- ①人の人生の重大な場面に関わる。
- ②無罪推定 「疑わしきは被告人の利益に」＝有罪にするためには、犯人らしいでは足りず、犯人に間違いないと言えなければいけない。
- ③自分の最善を尽くすこと。

## ◆◆◆ 座 談 会 ◆◆◆

座談会テーマ「当プロバスクラブのこれから」

北村克彦総務委員長

多摩プロバスクラブは2014年に設立10周年を迎える。2011年12月現在、会員は37名。これまで、さまざまな活動をしてきたが、これまでを振り返り、これからどうすべきかを皆で意見交換をすることにした。座談会に先立って、稲田興幹事から、他クラブの活性化への取り組み状況に関し、全日本プロバス協議会がアンケート調査した結果の説明があった。司会は古澤靖雄会員。  
司会：当クラブは、平成17年5月の研修旅行先で「プロバスの明日を語ろう」というテーマで意見交換を行っている。また、平成19年7月にはアンケート調査を行って運営の参考にしている。今回は、時間的な制約もあり、19年以降入会した会員から入会の動機、入会に際して抱いた当クラブへの夢を中心にプロバスクラブのこれからの話を語っていただきたい。

西村政晃会員：TICで中村昭夫会員の勧めで入会。予想以上に多彩な人の集まりで活動は充実していると思う。地域奉仕の活動を具体的に提案して充実させていきたい。

楠慶二会員：色々な活動に加わって、プロバスの活動に参加する時間が足りず地域活動をどう整理、両立するか悩んでいる。できる範囲の活動をしていきたい。

関根正敏会員：滝川益男会員の勧めでよく解らないまま入会。見識の高い人の集まりで先ず親睦を楽しんでいる。プロバスクラブの理念を果すことが重要だと思う。何かまとまってクラブとしてやっていくものがないか考える。

三木宗治会員：俳句サークルで声をかけていただき入会

した。多方面で活躍された方々の集まりで多くの刺激を受けている。健康上十分でないので、できるところで参加して行きたい。

永田宗義会員：経験豊富な人達と交流できればと思って入会。内外の人の話を聞いて勉強になっている。プロバスクラブに入って、広報委員の仕事を通して知識も習得できた。これからも継続して見聞を広めていきたい。

北村克彦会員：5周年のイベント会場で同窓の登坂征一郎会員に誘われ入会。これまでの交流範囲から、新しい人達とお付き合いしながら行動範囲を広げていきたい。他の皆さんがどう考えておられるかもっと知りたい。

司会：当プロバスクラブの設立に、発起人として当たられた岡野一馬会員の苦勞話を聞かせてほしい。

岡野一馬会員：当時、東京多摩ロータリクラブに所属していたが、設立35周年記念事業の一つとして小西弘純氏と一緒にこのクラブを発足させた。蓮池守一会員に会員を集めてもらい、池田寛会員ほか15名が参加した。当地は新住民が多く、60歳を超えた人は地元との交流が少なかった。多くの人の交流に役立った。お金をかけないで活動をやっているプロバスクラブに期待したい。

司会：時間がなくて十分な意見交換はできなかったが、今日の意見を参考に今後のプロバスクラブの活動を考えていきたい。



座談会で討議中の皆さん

## ◆◆◆ 支 援 活 動 ◆◆◆

「東日本大震災支援キャラバン」参加レポート

北村克彦会員

(社)Hearth 代表の横島文美さんは東日本大震災発生後ワールドハートプロジェクトを立ち上げ、数次にわたって活発に活動(プロバスニュース第39号で詳報)されてきましたが、この度「東日本大震災サンタキャラバン」を計画し、当クラブにも参加の誘いがあり、北村会員が賛同し、往復900kmの移動に車を提供して「サンタキャラバン」に参加した。以下、北村会員の貴重な参加レポートを掲載する。



子供に囲まれたサンタの北村会員

○平成23年12月3日(土)・・・宮城県東松島市一行4名(横島夫妻・吉田知美・筆者)は冷雨の中を朝5時に出発、東松島市に午前11時半到着。

市の「元気なまちづくり委員会」が主催する「サンタを捜せ！」&「イルミネーション点灯式」に他の15団体と共に参加。私もサンタ姿(写真)で雨の中を参加した約50人の子供達の相手をし、プロバスの皆さんから提供されたプレゼントを配ったり、サンタと記念写真を撮ったり、午後1時から2時間余り楽しく過ごした。

○平成23年12月4日(日)・・・宮城県石巻市被災以来心身ともに疲れ果ててお化粧する気分の余裕もない若いお母さん方をメイクアップの講習会に招き、同行したメイクの専門家(吉田知美氏)の指導で進められた。このような時期、こんなことしている余裕はないと言われるのではと心配でしたが、杞憂に過ぎず、皆さんは楽しそうに和やかに過ごしていただいた。

○石巻市は震災後9カ月たった今も、町の中心部の壊れたままの店舗、何も残っていない空き地、津波で壊された車の山積み、瓦礫の山を見て暗澹たる気持ちになった。

(取材・文責 平田哲郎会員)

1. 関東中央地区交流会

神谷真一副幹事

今年11月17日(木)八王子エルシー会館において第1回関東中央地区交流会が開催された。参加団体は主催の



八王子PCの佐々木研吾会長挨拶

八王子はじめ日野・本庄・浮き城・四街道・横濱・鎌倉にわが多摩を含む8クラブで、参加者合計約50名。多摩から会長以下7名が参加。

2. 横濱プロバス倶楽部との交歓会 山田正司会員

「多摩の紅葉狩りとニュータウン散歩」と銘打った横濱プロバス倶楽部との交歓会が11月24日(木)の午後、晩秋の多摩市内を舞台に和やかに実施された。この催しの発端は当クラブの昨年度末の箱根一泊研修旅行の際に、往路での横浜市内見学と中華街での昼食時に横濱プロバス倶楽部の御協力で有意義な会員交流会が実現したことへの返礼として企画されたものである。わざわざ横浜から15名もの方々がマイクロバスを仕立てての参加に対し、わが方も盤石のお迎え体制を整えて当日を迎えた。その交歓会模様を以下に順を追って記述する。

午前10時に横浜を出発したマイクロバスは予定時刻30分前に都立桜ヶ丘公園記念館口駐車場に到着した。大澤亘会長と案内役の西村政晃会員・私の3名は1時間前から待機して首尾よく一行をお迎えした。

桜ヶ丘公園は多摩地域屈指の規模と景観を誇る都立の丘陵自然公園で、四季折々に桜、ツツジ、紅葉などの群生が楽しめる。中心施設の旧聖蹟記念館も明治天皇ゆかりの展示館で市指定の文化財である。歩いて先ず「明治天皇御製碑」に立ち寄る。明治の初頭、青年天皇は兎狩りを好み3度もこの地に行幸し、その折に詠んだ歌が巨大な御影石に刻まれている。碑の脇には銀杏の明治百年記念樹が立つ。この由緒ある銀杏の実の炒りたてと温かいお茶(レイボスティー)を共にふるまったところ大変喜ばれ一気に親善ムードとなった。旧聖蹟記念館では明治天皇行幸の足跡や田中光顕翁(記念館建設の立役者)所有の勤皇志士達との交流書簡展示や企画展(幕末の水戸藩士)、五賢堂内部を鑑賞した。予定時刻の12時45分、紅葉初期の桜ヶ丘公園を後に、バスで川崎街道経由



紅葉のメタセコイア並木通り

で鎌倉街道を西に進む。途中、旧富澤家前、行幸橋、多摩市役所前を通る。乞田五又路からはニュータウン通りの銀杏並木、上之根通りの

全日本プロバス協議会の立川副会長の司会で進められ、各クラブの代表者による活動状況や課題などがメンバー紹介とともに話された。その後昼食を取りながらの歓談を挟み、用意された貸切りバスに乗り、銀杏並木の黄葉を車窓から眺めながら武蔵御陵へ向かった。静けさの中、大正天皇・貞明皇后・昭和天皇・香淳皇后の陵墓を参拝し、午後5時に解散した。

今後、このような地区交流会を期に、他のクラブとの交流が多岐にわたって広がっていくであろうと感じた。

モミジバフウ並木、尾根幹線経由でメタセコイア通りの見事な紅葉並木を、終始西村会員の園芸うんちくで一同を大いに楽しませた。13時10分、ほぼ定刻通りに昼食会場の多摩中央公園内「レストラン・クレール」に到着し、多摩プロバスクラブの本日参加会員21名全員が玄関で出迎えた。



交歓会での大澤会長歓迎挨拶

当クラブ中村昭夫副会長・古澤靖雄会員の司会で大澤会長の歓迎挨拶、加藤武横濱前会長の乾杯で始まった。ワインと洋食で交流会は終始和やかに進行した。途中で両クラブ員全員が紹介され、そのコメントの一言が時に爆笑を呼ぶほどに盛り上がりを見せた。60年ぶりの旧友との再会も演出され、惜しまれつつも最後に森山功横濱会長の挨拶で終会した。

15時に隣接する「旧富澤家住宅」に移動して、かつて明治天皇行幸の際に休まれたとされる奥屋敷で蓮池守一会員による多摩の歴史紹介がなされた。前庭では全員の記念撮影が行われた。最後のコースは多摩センターのパルテノン多摩内部の「歴史ミュージアム」で、改めて多摩市の歴史などニュータウンの全容を俯瞰していただいた。16時、バスは多摩プロバスクラブ全員の見送りの中、一行を乗せて横浜への帰路についた。この交歓会は当クラブ滝川益男研修・親睦委員長の綿密なる計画、指導のもと、参加者全員の一一致協力による成果であり、後日の横濱プロバス倶楽部からいただいた数々の返礼内容からも極めて意義深い催しであったと確信している。



旧富澤家住宅の前庭に集った交歓会参加の皆さん

## ◇◇◇ 私の多摩ニュータウン（２） ◇◇◇

### 「私と多摩」

岡野一馬会員

東京オリンピックの熱も冷めた昭和 40 年、駒込から多摩に引っ越して来た。瀬戸内海の尾道で育った私は、潮の香のする土地に住みたくて、湘南海岸一帯を探し歩いていた。しかし当時は下水道完備の場所は少なく、あってもちょっと手の出ない地価である。「帯に短し襷に長し」と歩き回っている内に、最初の思惑とは全く異なる、海から遠く離れた多摩丘陵の一隅に住み着くことになった。

多摩地区の開発はオリンピック前から始められていたようだが、全く知らず、職業柄ドジな話である。ましてや、東京都の開発の中心人物が同じ学校（横浜）の友人であったとは…。



一本杉公園内旧加藤家（岡野画）

### ◆市民の健康増進のために

引っ越した昭和 40 年頃より多摩ニュータウンの入居が始まり、市制が施行され、15 万人の多摩市が誕生した。市は新しい市民間の親睦融和のため、文化団体・体育団体の育成に力を入れていた。丁度、私の仕事（建築設計監理）は昭和 40 年代中頃より多摩地区での件数が増え始めたので、事務所を新宿から多摩市に移転させた。当然、地元の友人知人も増え、仕事以外の交友関係が多くなる。昭和 50 年頃か、市体育協会から水泳団体立ち上げの話があり、水泳愛好の仲間や市内のスポーツクラブ 3 社と協議し、水泳連盟を組織した。会長を約 20 年間務め、毎年、市民水泳大会を多摩川河岸にあった屋外 50m プールで開催した。男女各種目・学校別・地域別のリレーなどに 200 名余の参加があり、応援の喚声は遠く駅まで聞こえたと言う。当時、市の教育長であった蓮池守一会員には、何度か大会の挨拶をいただいている。懐かしい話である。

水泳人口の増加と健康志向の高揚により、年間を通して泳げる屋内プール建設の要望が起り、一万人の署名を集め、市に提出した。数年後、唐木田に隣接の清掃工場の余熱利用した温水プールが完成し、年間一万人余の利用者があり、市民の健康増進に貢献している。

また、鈴木達夫会員は陸上競技協会の会長として、小西加葉子会員は薙刀連盟の副会長として、市の体育関連事業

を通しての永年の親交である。当然のことながら、皆若々しく颯爽と活動していた。



一本杉炭焼き小屋（岡野画）

### ◆市民の文化活動として

市の文化団体の始まりは美術関係からと聞いている。昭和 46 年の市制施行記念として市役所の広場で屋外の絵画展が行われたのを覚えている。多摩での本格的な美術展は東京多摩ロータリークラブ 20 周年記念展が最初であろう。

多摩市及び隣接地域を対象に、賞金総額約 100 万円で行われ、何かと話題を呼び、パルテノン多摩の市民ギャラリーは連日にぎわっていた。市民の強い要望により、翌年から多摩市主催の「うるおい美術展」という名で 10 年間続けられた。財政上の問題とはいえ、定着しつつあったこの種の文化事業を継続できなかったのは、市民にとって大変残念なことである。

三多摩地域は古来、文武両道の気風があり、江戸末期より明治にかけて多くの有能な人材を輩出し、黎明期の日本の歴史に大きな足跡を残している。

多摩を終の住処とした者として、改めてこの地の歴史を学び、見聞を広め、プロバスライフを大いに楽しみたいと思っている。

## ◇◇◇ ハッピーバースディ ◇◇◇

11月に誕生日を迎えました！



左から蓮池守一・吉岡喜久恵・村上伸茲 各会員

◇◇◇ サークル活動 ◇◇◇

◆グルメサークル

永島仁会員

「赤坂で海鮮料理を味わう」

11月4日グルメサークルの一行は中村副会長の案内で赤坂の海鮮酒家「海皇」に繰り出した。聖蹟桜ヶ丘駅集合組と永山駅集合組に分かれたものの、赤坂見附の現地で合流。老舗料理店・飲食店の立ち並ぶ路地に迷い込みながらも目指す「海皇」の予約時刻には十分間に合った。

滝川サークルリーダーの司会で、入会予定の森川静子氏に向けて和気あいあいの中各自の自己紹介で始まり、中村副会長の音頭で一同乾杯。ビール・紹興酒のつまみには胡桃と向日葵の種、そして海鮮料理の賞味に移る。

円卓の上に置かれたメニューには“熱烈歓迎”、鳳城魚滑・・・と最後に“平成二十三年十一月四日”と書かれており、今日我々のためにわざわざ作られたA5サイズのメニューである。

鳳城魚滑は中国風真鯛の刺身のことだそうで、活きた鯛に包丁を入れ姿作りにした後に、二種類の酢醤油風のたれをかけて食するのである。



うまい料理を堪能した面々

新鮮な鯛の刺身がシコシコして美味である。次は蟹の身入りスープ。さて、メインの海皇酔蝦は車エビの踊りである。活きた車エビに強い酒を注ぎ、エビが跳ね上がり、酒に酔って動かなくなったところを食するのである。淡泊で美味である。

以下順次メニューに従って蒸した毛蟹、炒め物などなど談笑の中に珍味を賞味満喫。舌ツツミを打った次第である。

◆ゴルフサークル

永田宗義会員

さる11月16日(水)に素晴らしい好天に恵まれ、花咲カントリークラブでゴルフを大いに楽しんだ。参加メンバーは、鈴木達夫会員・北村克彦会員御夫妻・初参加の永田宗義会員でプレーした。

絶好のゴルフ日和でしたが、肌寒くて思うように実力を発揮できないまいちの成績でした。

優勝は新ペリア方式で北村さんとなり、池田寛会員から提供されたカップをレプリカとして贈呈された。



ゴルフを楽しんだ皆さん

◆養蜂サークル発足

上田清リーダー

多摩地域は大規模なニュータウン開発で多くの自然が喪失したこともあって環境問題に対する市民の関心は高く、多彩な環境保全活動がみられるところです。

プロバスクラブにおいても「環境問題プロジェクト」を立ち上げて、炭酸ガスの排出量削減運動や東京都マイツリー計画への参加による緑化の促進などに加えて、11月から会員10名の有志による養蜂サークルを発足させ環境事業の充実をはかることにしました。

この養蜂サークルでは、豊かな自然の象徴とも言えるミツバチの飼育を通して、農薬等による生態系への影響など環境問題に関する啓発活動をおこなったり、一般市民や児童生徒の養蜂体験学習の場とするなど様々な地域活動を予定しています。

◇◇◇ 会員の活動 ◇◇◇

「貝合わせで遊ぼう」

吉岡喜久恵会員

12月2日(金)～4日(日)多摩市中央公園内の旧富澤家において貝絵展を開催しました。会員の作品展示と「貝合わせ遊び」の普及を目的としたものです。

蓮池(守)会員のお力添えで、多摩市教育委員会の後援を得て、小・中学校へチラシを配付していただいた結果、お陰さまで小学生が30名ほど来場して、目を輝かせて貝合わせを楽しんでくれました。

初日はあいにくと寒い雨模様でしたが、最終日は晴れて暖かくなり、朝から多くの方々にお越しいただいて、公園散策中の外国の人たちも立寄って、日本の伝統文化の一端

を楽しめました。



左から三人目が吉岡会員(和服姿)

◇◇◇ 2011 忘年会 ◇◇◇

12月7日(水)定例会後、永山情報教育センターの大和室で小西加葉子会員の司会で開催された。

八王子プロバスクラブ・日野プロバスクラブからのお客様に加え、震災被災地支援活動で活躍されている横島ご夫妻をお招きした。また、会員夫人2名も参加された。

中村昭夫会員と「多摩ダンディーズ」の男性カルテットがコーラスと合唱で雰囲気を盛り上げ、カラオケでは新入会員の森川静子さん、藤寄喬子さんが美声を披露するなど



お客様を交えて会場での記念撮影

大変盛り上がるなかで、親睦を深めることができた。

お客様：「全日本プロバス協議会」副会長 立川富美代様  
 「八王子プロバスクラブ」副会長 吉田信夫様、幹事 永井昌平様、交流担当 山崎修司様、  
 「日野プロバスクラブ」幹事 澤田研二様、小西弘純様  
 「Nuevo Bient 代表 (社) Hearth 代表理事」横島文美様、横島文夫様  
 (楠広報委員記)



「多摩ダンディーズ」のコーラス 右端が中村会員

◇◇◇ 新入会員紹介 ◇◇◇

森川静子会員



多摩村落合生まれの多摩っ子です。在職中より多摩市茶道連盟で茶道の普及活動に努めていらっしゃいました。裏千家準教授の資格を持ち、現在は市公民館の茶室で若い人たちの指導に専念しています。

性格は明るく活動的で有言実行型。お仲間の阪東先生、小西達と月釜、市民茶会、公民館主催の子ども茶道教室、「侘助」の講師など・・・ご自分の研修を含め、日々茶道の研鑽に努力されているお名前の通り静か(?)な方です。

(小西加葉子会員記)

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

「3・11」・・・重い一年だった。そんな中、若きブータン国王が来日し、素晴らしい国会演説を行い、被災地を訪れ爽やかな印象を残した。先進国が競う GNP は国連加盟国中下位、ブータンとはどんな国なのか。精神的に豊かな国造りを目指し、国是とする GNH (国民総幸福) とは何なのか。2008年、第五代現国王の戴冠式が行われ、新憲法の制定、総選挙も行われた。国土は九州ほど、人口70万のヒマラヤの小国である。標高100m～7,500m、平地が少なく急峻な地形の森林国である。鉄道もなければ、道路網も主要な町間を結ぶルートだけ、何かあれば隣国インドを迂回しなければならないことも起る。労働人口の約9割が自給的農業を営み、国民の大半が仏教徒。

ゆったりとした時間の流れ、この国を訪れた私にも、かつて日本にもあったものがこの国に生きているように見えた。大家族制と仏心が生き、礼節を尊ぶ純朴。環境保護にも熱心、建築も伝統的な様式を素朴に守り、風景として素晴らしい。時間を元に戻すことはできまいが、この国の価値観を学ぶことは発想の転換になり得ると思う。

(増山広報委員長記)

◇◇◇東京多摩プロバスソング◇◇◇

作詞 池田 寛  
 作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて  
 緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と  
 社会奉仕に力をそそぐ  
 集う我等プロバスクラブ  
 プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い  
 豊かな知識身につけて 次の世代の若人の  
 教え導く糧となる  
 集う我等プロバスクラブ  
 プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ